

# 士別市地域公共交通計画（概要版）

## 1. 計画の背景と目的

士別市では、人口減少と少子高齢化が進行し、自家用車への依存が高い一方、高齢者や学生など「運転ができない市民」にとって公共交通は不可欠な社会基盤です。

しかし、利用者の減少、運転手不足、燃料費高騰により、現在の路線維持は極めて厳しい状況にあります。本計画は、持続可能な地域公共交通を構築するための指針として策定しました。

- 計画期間：令和 8(2026)年度 ~ 令和 12(2030)年度（5 年間）
- 対象区域：士別市全域

## 2. 士別市の現状と課題

- 車社会の鮮明化：市民の約 77%が免許と車を保有。一方で、2050 年には人口が約 8,600 人まで減少、半数以上が高齢者となる見込みで、将来的に「運転できない層」が急増します。
- 利用実績の格差：市内外回り循環線（平均 9.0 人）などは一定の利用がある一方、1.0 人を下回る路線も存在します。
- 財政負担の増大：公共交通に関わる事業費は利用者の減少等の要因により、令和 2 年度の約 3,500 万円から令和 6 年度には約 5,200 万円へ増加傾向にあります。
- 新たなニーズ：既存のバス路線では対応しきれない「高校生の部活動後の帰宅」や「小中学生の放課後の習い事」への移動手段の確保が求められています。

## 3. 計画の基本方針

『持続可能な地域公共交通』 ~市民の移動手段の確保を目指して~

単なる現状維持ではなく、高齢者や学生などの移動手段を最優先に確保し、限られた資源を最大限に活用することで、利用者のニーズに即した効率的な交通体系を目指します。

## 4. 5つの目標と主な取組内容

本計画では、以下の5つの目標を掲げ、具体的な取組を推進します。

1. 利用実態に応じた効率的なバス路線の再編
  - 利用の多い時間帯への集約化。
  - 病院・商業施設を結ぶ市内循環線のルート再検討。
2. ニーズや地域特性に応じた新たな交通モードの導入
  - 乗合タクシー等のデマンド型交通（予約制）の導入検討。
  - スクールバスへの一般混乗や、貨客混載（荷物と人の同時輸送）の検討。
3. 地域全体で支え合う官民共創の推進
  - 市民の公共交通に対する理解と利用促進（ノーカーデーの実施等）
  - 移動を「自分ごと」として捉えるための意識改革。
4. 分かりやすく利便性の高い情報発信の強化
  - バスロケーションシステム（リアルタイム位置情報）の活用。
  - ウェブサイト・アプリなどでのルート・時刻等の検索機能の提供。
  - キャッシュレス決済（QRコード、電子マネー等）の導入検討。
5. 将来を見据えた交通体系の調査・研究
  - MaaS（一括検索・予約・決済）や自動運転技術の動向調査。
  - バスとタクシーの連携強化（実務者協議の実施）

## 5. 計画の達成状況評価

評価指標	現況（2025年度）	目標（2030年度）
市内外回り循環線の平均乗車人数	9.0人 / 便	10.0人 / 便
新たな交通サービスの導入	路線バスのみ	乗合タクシーや助成制度、貨客混載の導入
公共交通の利用に関する市民意識※	18.7%	30.0%
情報提供手段（GTFS データ化）	PDF 時刻表のみ	Google マップ等への反映
新技術導入に関する調査・研究	-	導入に関する検証結果作成

※「市民が積極的に公共交通を使うべき」と回答した割合

## 6. 推進体制

「士別市地域公共交通活性化協議会」が中心となり、PDCA サイクル（計画・実行・評価・改善）を回しながら、実効性のある取組を進めていきます。